

名画鑑賞事典

# 美の系譜

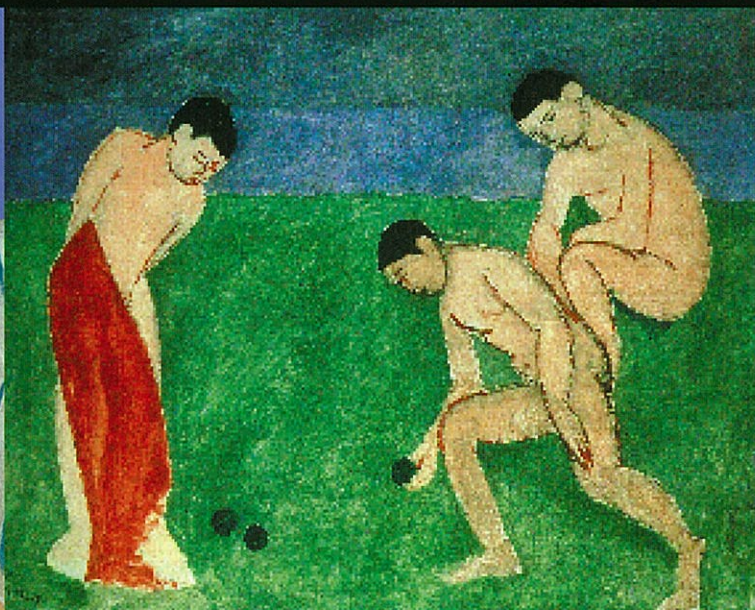


天才画家同士の知られざる関係が解き明かされる……

〔編〕 デヴィッド・ギャリフ 〔訳〕 藤村奈緒美・鈴木尚子



フェルメール、セザンヌ、ムンク、ピカソ……。  
彼らは誰の影響を受け、誰に影響を与えたのか。



# ルネッサンスから現代まで、世界の天

## 印象派と後期印象派

1874年4月、パリで開かれた第1回印象派展は、現代絵画とそれに続く多くの前衛的芸術運動の出発点と捉えられることが多い。

本文見本  
45%に縮小

# 1870-1910

年表	1870	1874	1875	1878	1884	1888	1892	1894	1895	1903	1907	1910
	ジャン＝バティスト・コッポルドの『パリの街角』が完成された。	第1回印象派展がパリで開催される。	ドガが『ブザン』を完成し、パリのサロン展で展示される。	パリの万国博覧会の開催。電報、電話、日本の美術品などが展示される。	スーラの『エニエールの本道(自題)』が完成し、『アン・ド・パンダン』に展示される。	ファン・ゴッホが『夜のカフェテラス』を含む20点以上の作品を制作し、本道に展示される。	モネの『オランピア』(1865年)が完成し、『叫び』を完成する。	モネが『ルーアン大聖堂、西日、霧』を完成し、セザンヌが『大聖堂』の制作を始める。	ドガが『イストマン・コックの肖像』を完成する。	ドビュッシー、『肉の光』を完成する。	ピカソが『グランドニョンの娘たち』を完成する。	批評家のフライト・ロンドンの『グランドニョンの娘たち』を完成する。『イストマンコック』を完成する。

この時期、カミーユ・ピサロ (1830-1903)、クロード・モネ (1840-1926)、ピエール＝オーギュスト・ルソー (1841-1919)、エドガー・ドガ (1834-1917) らは、独立した芸術家の集団、『画家、彫刻家、版画家などの含資会社』として展覧会を開催する。初回には、ポール・セザンヌ (1839-1906)、ペルト・モリゾ (1841-1897)、ルフレッド・シスレー (1834-1899) などの画家も参加した。彼らは自分なりの目で評価された。モネの絵画『印象・日傘、パリ』に、批評家の中で芸術家の自由な職業として、『印象派』と

社会との直接的な接触から生まれた現代的な題材を、民衆に示すことになった。また、鉄道の拡張、油絵具を入れる便利なチューブや持ち運び可能なイーゼルが登場し、印象派の人々は題材としてのフランスの田舎を見出す。その時点から、世界中の多くの芸術家に影響を与えられた。それがやがて、印象派の後に続く世代に道を開き、絵画の領域をより広くまで広げることとなる。独自の表現形式を探索した。そうでなければ、印象派は、セザンヌ、ポール・ゴーガン (1848-1903) によって

品に見られるように、絵画の原点となる感情を強調する

124 印象派と後期印象派

エドガー・ドガは、フランス印象派の発展に重大な役割を果たした画家だった。しかし、修業歴、関心、才能、信念といった重要な要素において、印象派のより忠実な信奉者たちや中心思想とは一線を画している。巨匠たちの作品研究、デッサンの重視、動きの探求、技法上の実験を通して、ドガは19世紀後半のフランスの芸術家たちに、より広い選択肢と可能性を与えることになった。



『洗う女』ドガ

◆日本美術  
ドガの芸術は、日本の版木の平板さ、単純化した形態、独特の視点、非対称の構図を取り入れ、自らのものとした(上図)。「川で洗濯をする女性」(1888年9月、ル・ジャポニスム展)は、ドガの『洗う女』と似ている点で

◆エミール・ボナール (1840-1902)  
ソラの自然主義作品は、現代美術の先駆けとして、都ていてる点で

「ニュー・ベインティン」印象派は直ちに世に知名度やカフェ、劇場、キ

← 受けた影響

- 凡例
- 芸術家
  - 芸術上の影響
  - 文化的影響
  - 宗教的影響

◆イタリア・マニエリスム  
ドガはポントルモ (1494-1577) やアーネスト・プロンズイーノ (1503-72) の作品の線描的特質、優雅さ、均衡を、称賛した。

◆ジャン＝オーギュスト・ドミニク・アングル (1780-1867)  
芸術の基本をデッサンに置き、描線に習熟したアングルに若きドガは終生変わることがなかったほどの感銘を受けた。

◆ギュスターヴ・クールベ (1819-77)  
クールベは実生活に見られる人物や出来事を描き、ドガの題材の選択に影響を与えた。

◆エドワード・マイブリッジ (1830-1904)  
人間や動物の動きを途中で止めたようなマイブリッジの写真を、ドガは研究し、模倣した。

◆エドゥアール・マネ (1832-83)  
ドガは内面的にも絵画に関しても、マネと共通する点が多かった。両者とも、革新的な絵画表現形式の構築という、現代的な問題を追求した。

### エドガー・ドガ (1834-1917) フランス

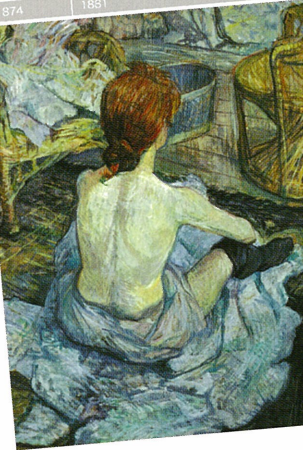
年表	1834	1855	1856	1865	1868	1874	1881
	7月19日、パリに生まれる。	ジャン＝オーギュスト・ドミニク・アングルと出会う。国立美術学校に入学。	3年間のイタリア旅行に出発。	初めてパリのサロンに作品を展示。	パリの前衛的な芸術家、作曲家のグループの一員となる。	第1回印象派展の企画に参加し、自作の展示も行う。	第6回印象派展で『洗う女』(14歳の娘)を展示。

→ 与えた影響

◆メアリー・カサット (1844-1926)  
カサットがパリに移って以来、ドガは彼女に最も影響を与えた師であり、友人、支援者でもあった。

◆ウォルター・シッカート (1860-1942)  
シッカートは、パリでドガと創作に励む中で、彼から多くを学ぶ。特にドガが絵画の素材として写真を使用したことは、シッカートに重要な意味をもった。

◆アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック (1864-1901)  
ロートレックは、ドガの用いた題材、表現形式、創作方法に直接的な影響を受けた(右図)『赤毛の女(身づくろい)』(1896年)。



最後の第6回印象派展で、水浴びする女性のバスタブルを展示。

1886

1895-96

◆ピエール・ボナール (1867-1947)  
1920、30年代に描かれたボナールの見事な女性裸体画の連作は、題材、革新的手法、観察眼の諸点でドガを思い起こさせる。

◆アン (1881)  
マティス、ピカソ、ドガの作品が持つ特性を明らかにします。

エドガー・ドガは、19世紀で最も重要な芸術家の人である。その名が、油彩画、彫刻、線画、版画、写真の分野で意味するものは、刷新と変化である。ドガの生き生きとした色彩、私的空間や女性の裸体画への没入、斬新さを増していく線描は、次世代の芸術家たちに新しい道を開いた。芸術家としての影響力は生前に留まらず、バブロー・ピカソやアンリ・マティスらモダニズムの巨匠たちに、様式や主題、技法を常に刷新させる力にもなった。

ドガは美術史の豊かな伝統を誇りどころとしながら、自身の研究にも、芸術家として成功するための準備にも慎重にあたった。卓越した過去の巨匠たち、例えばラファエロ (1483-1520)、た。卓越した過去の巨匠たち、例えばラファエロ (1483-1520)、ティツィアーノ (1490頃-1576)、ディエゴ・ベラスケス (1599-1660)、ワージェーヌ・ドラクロワ (1798-1863)、とりわけジヤン＝オーギュスト・ドミニク・アングル (1780-1867) から影響を受けるとともに、エドゥアール・マネ (1832-1883)、カ

各章は西洋美術史の主要な動向を表しています。

- ・影響：その芸術家の作品に大きな影響を与えた事柄を挙げている。
- ・年譜では、その芸術家の生涯における重要な出来事を紹介している。
- ・後世への遺産：その芸術家に影響を受けた芸術家や流派について述べている。

取り上げた芸術家の生涯、作品、西洋美術史上で占める位置について論じています。

明らかなにします。術家の作品が持つ特性を

げて詳細に分析。その芸術家の作品が持つ特性を

# 才画家50人の知られざる影響関係。

美術史をこれまでにないユニークな視点で見直した画期的美術入門。美術史上重要な画家50人を取りあげ、その複雑にからみ合っている相関関係に迫ります。作家の特徴や他との相違、後世への影響などに注目しながら、様々な作品を詳細に分析。芸術家同士の関係がタペストリーのように織りなされたきらびやかな美術世界、それが今、あなたの眼前にひろがります。

著者紹介：デヴィッド・ギャリフ

美術史家。ワシントンのナショナル・ギャラリー・オブ・アート（国立美術館）講師。アメリカ・カソリック大学美術史外部講師。専攻はイタリア・ルネサンスならびに近・現代美術。

各章の冒頭に年表を載せ、その時代の鍵となる文化、科学、技術上の出来事をまとめました。

その時代について解説し、その章で扱う芸術家たちが活躍した背景について。

他の芸術家と比較するため、鍵となる作品を掲載。



ドガ 125

「せる標の女性」  
オーギュスト・ドミニク・アング  
半、ボナ美術館、バイヨンヌ  
い頃にアングルと出会い、その熱  
ッサンと描線を生涯尊敬した。

■写真  
ドガは写真撮影を行い、  
撮影した写真は彼の芸術  
の形式的特性、アトリエ  
での活動、創作方法に影  
響を与えた。

9月27日死去、モ  
ンパルゼル墓地に  
埋葬。

●パブロ・ピカソ  
(1881-1973)  
ピカソは膨大な数のド  
ガの版画を所有してお  
り、インスピレーション  
と対話を求め、たび  
たびドガの芸術に立ち  
返った。

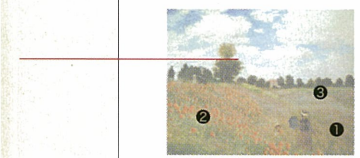
ード・モネ (1840-1926)、  
ル (1841-1919)、オーギュ  
スト時代の芸術家たちから

や、題材の出所を様々な  
は、日本美術、写真、現代文  
がは厳格、慎重、複雑な芸術  
：「正統」と「前衛」という言  
った。フランス印象派の主要  
像派の設定した当面の目標を  
表現形式を生み出した。光、  
びや、素材や創作プロセスの美  
芸術の主要な関心事の多くを

『浴槽』  
エドガー・ドガ、1885-86年、オルセー  
美術館、パリ  
後期には、ドガは女性が水浴びや身づ  
くろいをする私的で家庭的な場面ばかり  
を、主にパステルを使って描くよう  
になる。彼の描く裸体画は、理想化さ  
れた古典派の美とは異なり、実生活か  
ら取り出されたものだった。

本文見本  
56%に縮小  
(部分)

『アルジャントウイウのひなげし』  
クロード・モネ、1873年、オルセー美術館、パリ  
アルジャントウイウで暮らした頃、モネはひなげし畑を題材に  
した理想郷のような情景を多数描いた。



作品について  
モネが最初に印象派を試みた作品の多  
くは、パリ郊外の町アルジャントウイ  
ウで描かれた。本作には、形態的要素  
を様式的中心に据えたモネの姿勢が表  
れている。具体的には、遠んで調和の  
取れた色彩、淡々とした筆づかい、形  
態を溶かすように輝きを放つ光などで  
ある。

光  
戸外での制作にこだわったことによ  
って、モネは光のみずみずしさや力強さ、  
絶えず変化する性質を的確に捉えた。  
色彩  
赤いひなげし、水色の空、緑葉子のよ  
うな白い雲などの澄んだ色、野原に使  
われた様々な色調の緑、茶、黄、灰に、  
印象派的な色づかいが感じられる。

筆づかい  
本作には多様な筆づかいが見られる。  
野原の一部ではさざ波が立つように  
短く筆を止め (1)、ひなげしには赤を  
つくように乗せ (2)、空や遠景には  
広い面で色を重ねている (3)。  
題材  
赤いひなげしの畑は、昼間の散歩を描  
くには最適な設定である。印象派の風  
景画では、ひなげし畑は典型的なテーマ  
のひとつとなった。



やかな風景画から、印象派前期の様式に移る。これは短いさ  
波のようなタッチと、澄んだ色調と光の効果による曖昧な形態  
特徴とする。モネの芸術上の実験は、1872年から78年アルジ  
ヤントウイウで行われ、カミーユ・ピサロ、アルフレッド・シ  
スレー (1839-99)、ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
(1841-1919)、ギュスターヴ・カイユボット (1848-94) から周囲  
の芸術家や友人によって充実したものとなった。彼らは一団と  
なって、「画家、彫刻家、版画家などの合資会社」をつくり、  
1874年に独立集団として展覧会を催すことになる。

現在「印象派」と呼ばれる、その集団の中心となったモネは、  
1870年代の後半に何度かの挫折を経験する。絵が売れなくなり、  
1879年には妻のカミーユが他界するのだ。モネはアルジャント  
ウイウを離れ、アリス・オシュアとその子供たちとジヴェルニ  
ーに居を構える。最終的に、アリスは彼の2番目の妻となる。  
モネはよく絵を描く旅に出たが、終生ジヴェルニエを拠点とし  
た。画歴後半に残した最大の業績は、連作絵画である。1日の  
うちでそれぞれ作品に割く時間を決め、同時進行で複数の絵  
を描くことによって題材に集中し、天候と光の状態の変化につ  
れていかに形態と色彩が変化するかを観察した。光の具合や天  
気が変われば、彼の使う色も変わった。壮大な花畑と睡蓮の池  
がジヴェルニエに完成したのは、この頃である。この庭と池は、  
モネにつきることのないインスピレーションを与えることとな  
る。晩年になって、視力の低下で制作数は減るが、フランス政  
府のために並外れた大作『睡蓮』シリーズを仕上げたのは間  
に合った。残念なことには、これがオランジュリー美術館で公開  
されたのは、1926年12月、モネが他界した5カ月後のことだ  
った。

『シネコック  
ウィリアム  
リン美術館  
ニューヨ  
ーク・ヒルズ  
る。その廣  
れ、戸外

名画鑑賞事典  
**美の系譜**

天才画家同士の知られざる関係が  
解き明かされる……



デヴィッド・ギャリフ 著  
藤村奈緒美・鈴木尚子 訳

ゆまに書房

名画鑑賞事典

**美の系譜**

2009年  
2月発売

天才画家同士の知られざる関係が  
解き明かされる……

[著] デヴィッド・ギャリフ

[訳] 藤村奈緒美・鈴木尚子



●定価5,040円(本体4,800円) ISBN978-4-8433-3094-4 C1671

B4判変形(270mm×227mm) 上製/カバー装/オールカラー/192頁

**特色**

◆ ルネッサンスから現代まで、西洋美術史に残る錚々たる巨匠50人を網羅。

- ◆ 作家や作品を詳細に分析、複雑に入り組んでいる影響関係を明快に指摘。
- ◆ 各芸術家の生涯における重要な出来事を年譜で紹介し、略歴を記す人物事典。
- ◆ 西洋美術史の主要な動向や、芸術家たちが活躍した各時代の背景を解説。
- ◆ 影響を受けた鍵となる作品を多数掲載し、細部にわたって解き明かす。



**世界名画の謎** 全2巻

[著] ロバート・カミング ●揃定価13,440円(各本体6,400円)

「モナリザ」にはなぜ眉がないのか? 大判サイズのオールカラーで、作家や作品の重要ポイントを詳述。名画に隠された謎を読み解きます。大きさ、制作年、所蔵機関などの基本データを完備し、各巻末には便利な索引・用語解説を付しました。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 <http://www.yumani.co.jp/>

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	名画鑑賞事典 <b>美の系譜</b>		取扱店
	●揃定価5,040円(本体4,800円) ISBN978-4-8433-3094-4 C1671		
お名前			 09.01/01.10000.H
ご住所	TEL ( )		